

中国語ノススメ

廣田 律子

1. 中国語とはどんな言葉？

世界の人口64億人、中国の人口は13億人を超えていますから、中国語を学ぶということは世界の
だいたい5人に1人とコミュニケーションを取ることができるということです。

中国は多民族国家ですし、また多様な方言が存在します。みなさんはいわゆる漢民族の言語で、
また全国的に共通して通じる「普通話」を学習します。

中国語	我 爱 他。
拼音（ピンイン）	W ^ˋ o a ^ˋ i t ^ˊ a
英語	I love him.
日本語	私は彼を愛する。

中国語は漢字で表現します。漢字の読み方を示すために中国式ローマ字の拼音（ピンイン）を使用します。ローマ字の上についている^ˋ、^ˊ、^ˋ、^ˋの記号は音の上げ下げを表します。漢字も「簡体字」といって、日本の漢字とは異なる字体が用いられます。漢字を並べ替えて言い表しますから、英語のように格変化や活用はなく、漢字が変化したりしません。

中国語はとてもリズムカルな言語です。歌を口ずさむように楽しく学習しましょう。

私が中国語の授業で最初に教えるのは、「チーフアンラマ？（ご飯食べましたか?）」という言葉です。これは、中国では「おはよう」や「こんにちは」の代わりに親しい間柄で交わされる挨拶なのです。中国人は「食べる」ことを大変重要と考えていて、食事を欠かすことは思いもよりません。相手が元気であるかどうかを尋ねるために、相手が食事を取ったかどうかという言葉を使うのです。

言語は、人と人とが交流するときの手段に過ぎません。私はただ単に言葉を教えるのではなく、語学を通じて中国人の価値観や文化的背景なども知ってもらえるよう心がけています。また、言語はどれだけたくさんの言葉を知っているかではなく、どうやって使うかが肝心ですから、実践的な中国語を教えることに重点を置いています。私が中国でフィールドワークをするときに主

に使う言葉は、「ニーハオ（こんにちは）」「シェイシェイ（ありがとう）」「ハオチー（おいしい）」の3つに絞られます。タイミングよく使えば、この3つでも充分会話は成立します。難しい単語を覚えるより優しい単語を使っていかに難しい内容を説明できるかが肝心です。

授業の前に必ずやってきてほしいことはただ一つ、朝ご飯をしっかり食べてくることです。授業の始めには、私も「チーフアンラマ？」とみなさんに声をかけます。授業の90分間は、とにかく大きな口と大きな声で中国語を発することに専念してもらいます。かなり集中して頭も使いますから、朝ご飯抜きでは糖分不足で頭が冴えませんし、終わる頃にはかなりお腹が空いてヘトヘトになってしまいますよ。

2. 検 定

資格を取ることで、目標をもって中国語を学修できるようになりますし、自分の力を確認し、不十分な点を補強するきっかけとなるでしょう。なによりも就職に際してプラスに評価される材料となるでしょう。

資格には中国語検定及びHSK（漢語水平考試）等があり、半年間学修を終えたら受験できるくらいのレベルから用意されています。取得したレベルに応じて単位としても認定されます。

やる気のある人向けに月曜日と火曜日のお昼休みにリスニング対策の特訓を行っています。

3. 世界の市場 中国

この2月に中国上海を往復しましたが、飛行機の中は、日本人ビジネスマンで満席の状態でした。中国の正月の時期にもかかわらず、中国と日本の間では休みなく人々が行き交っているのです。

隣の席の50代くらいのビジネスマンは、中国の現地工場の生産データに目を通した後、中国語の会話テキストに一生懸命取り組んでいる様子でした。きっとこのビジネスマンは“若いときに中国語をやっておけばよかった”と痛感しているのだろうなと思いました。現実には5千社を超える在中国の日本企業現地法人は、中国での営業・販売ネットワークの拡充・生産の多角化等を進めています。

確実に中国と日本との貿易額は増えていて3千億ドル台に達しました。私も愛用しているユニクロの製品は糸から縫製まで中国で全行程を生産しています。あんなに安く品質も良いものができるのですから、中国は衣料だけでなく家電そして自動車へと、世界の工場としての位置を確実にしています。

上海の空港に28歳になる友人の娘さんが自家用車で迎えに来てくれました。車の内装は女性らしくとてもかわいらしく飾り付けられ、SMAPの曲を聴きつつドライブを楽しんでいる様子は、自分の城を得たといったところでした。彼女の乗っているのは日産車で、中国の現地工場が生産され

たものです。価格は、日本円で240万円、ローンを組んで購入したそうです。彼女は中国通信とアメリカのAT&Tの合併の通信会社に勤めており、月収は13万円もあり、まさに独身貴族です。中国では富裕層が増え、マイカーブームが訪れているので、日本の自動車メーカーも揃って中国での生産に力を入れ始めています。

日本の13倍の13億人の購買力はすさまじく、まさに中国は世界の市場となりつつあります。日本の様々な業種の企業が中国に販路を求めているのです。2010年に万博が開催され、すでに1300万人を超える人々が住み、東京を超える総距離の地下鉄網ができあがっている上海の町では、今コンビニ戦争が起こっています。羅森（ローソン）と全家（ファミリーマート）が急ピッチで展開を進め、中国企業の好徳の販路を脅かしています。

この頃東京では、観光地やショッピングでよく中国語を耳にするようになりました。先日も浅草寺に行くと、中国人団体観光客が、記念写真を撮ったり、観音様に手を合わせおみくじを引いて一喜一憂したりしていました。中国の人にとっても観音は願いを聞き届けてくれる身近な仏であるのです。

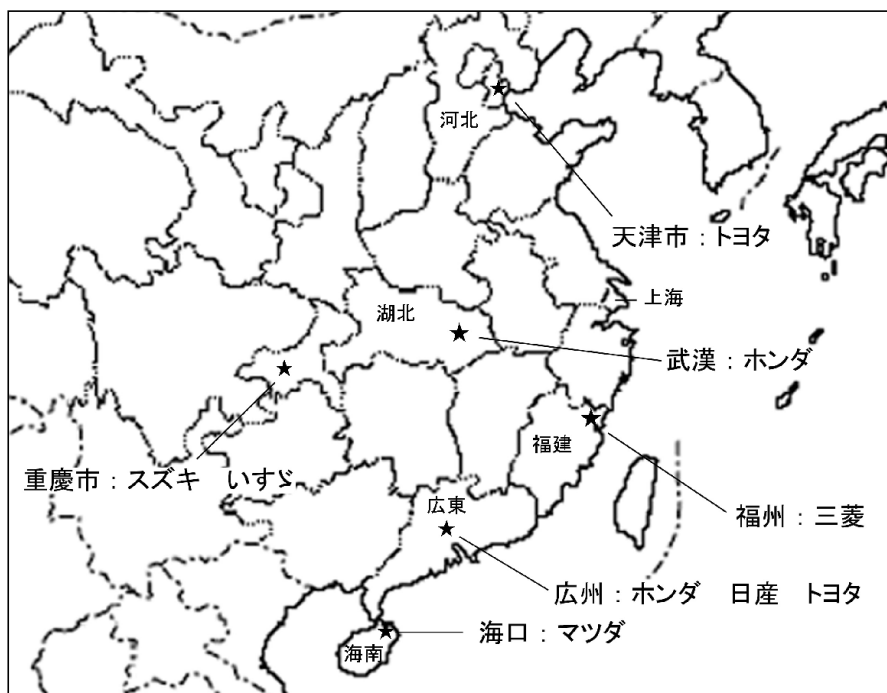
将来学生諸君がどんな企業に就職を求めるにしろ、中国語ができるということは確実に武器になるのです。企業研修でも中国語を課す企業は多く、内定を貰った4年生の学生があらためて中国語を履修するケースも増加しています。

学生諸君が経営学を学びつつ、その実践力を高めるために語学を学ぶとしたら、オリンピック、そして上海万博を経て、GDPが日本を追い越し世界2位になった、お隣中国の人々の言語を選ぶことをおすすめします。

今中国は、「和諧社会（調和のとれた社会）」をモットーに「国家の豊かさ」から「国民の豊かさ」を追求する方向に転換を図っています。中国は環境破壊の対策、食品安全の確保、格差社会の是正等多くの問題に直面しています。ここで中国は日本をモデルとして参考にしようとしているのです。日本と中国は日本人の行き届いたきめの細かい考え方、中国の将来を見据えた戦略的行動力というようなお互いのよい面を認め合い感情的な偏見や矛盾を超え、責任ある大国として共同して東洋の時代を興していくことができるでしょう。

通訳なしで自分の言葉でコミュニケーションを取ることができれば、よりよくお互いを正しく理解することに繋がり、平和で豊かな東アジア世界が実現できると思うのです。将来の可能性を広げるためにも一緒に中国語を学びましょう。

元気に“こんにちは”“ニーハオ・你好！！”からスタートです。



日系自動車メーカー生産拠点所在地図

日本の貿易相手国 TOP10

2011年度7月累計

単位千円

輸出

順位	国名	金額
1	中国	7,568,470,505
2	米国	5,500,905,505
3	韓国	3,183,923,168
4	台湾	2,490,829,096
5	香港	1,971,214,923
6	タイ	1,756,999,877
7	シンガポール	1,273,873,738
8	ドイツ	1,087,140,222
9	マレーシア	894,167,523
10	オランダ	856,894,997

輸入

順位	国名	金額
1	中国	8,198,757,200
2	米国	3,452,239,664
3	オーストラリア	2,495,796,332
4	サウジアラビア	2,319,550,230
5	アラブ首長国連邦	2,000,221,118
6	韓国	1,811,899,913
7	インドネシア	1,602,866,722
8	マレーシア	1,371,271,674
9	カタール	1,263,102,844
10	タイ	1,166,076,861

日本貿易振興機構（ジェトロ）貿易データベース

貿易バランス（<http://www.jetro.go.jp/cgi-bin/nats/cgi-bin/search.cgi>）より抜粋

4. 短期研修・長期留学

メディア教材作成プロジェクト

SA（スタディー・アブロード）では中国の大都市上海の大学で、約1ヶ月間研修を行います。中国語や中国概説の授業を受けるほか、学生交流やホームステイや小旅行を通じて中国人の生活や考え方を実感してもらいたいと思います。

1年間の浙江大学、上海師範大学、そして復旦大学への交換留学のチャンスもあります。日本国際教育協会の奨学金が支給されます。

2005～2007年の3年間、「神奈川大学メディア教材制作プロジェクト」で、学生たちを連れて中国・湖南省へ取材に訪れる機会がありました。このプロジェクトでは、学生たちが自分でテーマを企画し、現地取材を行います。そのとき、現地でお世話をしてくれる人に、「私が子どもの頃、日本軍がやって来たせいで、家財道具のすべてを失った。だから日本人が嫌いです」と最初に言われ、学生たちはショックを受けていました。けれども、その人と1週間、行動を共にしていたら、最後には「日本の学生はいいね。日本人はいいね」と言ってもらえました。彼の考えを変えたのは、学生たちの若い力です。中国の人たちが抱えている日本へのイメージを変えることは、若い世代にしかできないこと。実際の交流を通じて、お互いを理解できるようになっていったのですね。

このプロジェクトを通じて、参加した学生たちがみるみる成長していく様子を間近で見してきました。学生の成長の場を目の当たりにできるなんて、教員としてとても幸せなことだと感じています。

今の学生たちはみな、何事にも「そこそこ」「ほどほど」で、自分の持っている100%の力を出し切ることはあまりないように思います。でも、「これは！」というものの、勉強に限らずクラブ活動でも、ボランティア活動でも、恋愛でもいいから、情熱をもって何かに全力を出し切るという経験をぜひともしてください。力を出し切っても結果的にうまくいかないときもありますが、そこで立ちすくんでしまわずに、自分の力でまた起き上がれる力を、学生のうちに身に付けてほしいものです。

大学は社会に出る前段階であり、社会に出てから困らないような知識と力を養う場でもあります。4年間で、いろいろな経験をしてみてください。いろいろなことに挑み経験することで、心のひだが増えていきます。

4年間あれば、いろいろな経験ができます。どんな経験でもよいのですが、目に見えた形で成果が明らかになるのが語学で、中でも中国語など初めて学ぶ外国語はおすすめです。英語でつまづいてしまった人も、ぜひ新しい語学に挑戦してみると良いですよ。言語は手段であり、使い方が理解できればぐんと上達します。

また、何事も自分の目で実際に見てみる経験はとても大切です。神奈川大学にはメディア教材制作プロジェクトや、SAなど、異文化体験ができる機会がいろいろ用意されていますので、そういうチャンスをうまく利用してみてください。